特定非営利活動法人 日本免疫学会

平成25年度後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award

研究発表報告書

申請者氏名	瀬川　誠司	会員番号	0030451
申請者の所属・職名	筑波大学医学医療系(膠原病・リウマチ・アレルギー)・助教		
出席会議名	2013 ACR/ARHP Annual Meeting		
発表論文タイトル	Involvement of TCR Vδ1+ NKT cells in systemic sclerosis: Association with interstitial pneumonia		

実施結果:

この度はTadamitsu Kishimoto International Travel Awardを賜り誠に有難うございました。

私は2013年10月25日から30日まで、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴにおいて開催されたアメリカリウマチ学会(ACR/ACHP Annual Meeting)に参加し、" Involvement of TCR Vδ1+ NKT cells in systemic sclerosis: Association with interstitial pneumonia" という演題にてポスター発表して参りました。ACR/ACHP Annual Meetingはこの分野における最大規模の学会ということもあり、アメリカのみならず世界各国から著名な先生方が参加されていました。会期中のポスター演題数は2643題あり、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群に代表される自己免疫疾患に関連した基礎研究・臨床研究の最新の知見を得ることが出来ました。

現在、私は「全身性強皮症とγδT細胞」というテーマの元、モデルマウスおよびヒト検体の双方より解析しております。本学術集会では、全身性強皮症患者に高頻度で合併する間質性肺炎病態と、血中γδT細胞サブセットとの関係性を解析した研究結果について発表させて頂きました。具体的には、NK細胞マーカーを発現したγδT細胞に着目し、これらの細胞と全身性強皮症患者での間質性肺炎病態活動性が関連すること、線維芽細胞増殖能に対する影響が健常人と全身性強皮症患者由来の細胞で異なることを示しました。全身性強皮症は、多因子疾患であることからその病態を解明することは容易ではありません。現在、世界中の研究者が様々な角度から病態解明・新規治療法開発へのアプローチを精力的に行っています。このような中で、自分の研究テーマに関して多方面からの質問を頂き、議論出来たことは大変貴重な体験となりました。今回の受賞を励みとし、また本学会中に得られた知見を活かしつつ今後も研究に邁進していきたいと思っております。

最後に、岸本忠光先生をはじめ、ご選考いただいた日本免疫学会の先生方に厚く御礼申し上げます。また、ご指導いただいた当研究室の住田孝之教授、後藤大輔准教授、並びに実験にご協力いただいた研究室の皆様に心より感謝申し上げます。

注) 本報告書は手書きでなく、ワープロを使用して作成して下さい。